

創立百周年記念 特集号

発行日
平成 27 年 1 月 20 日

編集・発行
愛知県立稲沢高等学校
創立百周年記念事業実行委員会
稲沢市平野町加世11番地
〒492-8264 TEL0587(32)3168



目 次

式 辞	実行委員会委員長・後藤 芳徳… 2
愛知県教育委員会祝辞	教育委員・佐藤 元英… 2
来賓祝辞	参議院議員・大塚 耕平… 3
	参議院議員・齋藤 嘉隆… 3
	衆議院議員・長坂 康正… 4
	愛知県議会議員・久保田浩文… 4
	稲沢市長・大野 紀明… 5
校長謝辞	校長・林 広志… 5
誓いの言葉	生徒代表・後藤 孝太
	山田 恵子… 6
創立百周年記念式典概要	教諭・水野 晋… 6
記念行事について— 記念式典・記念行事委員長・家田 鐵彦… 7	
創立百周年記念祝賀会	教諭・村瀬 克典… 7
記念誌の編集を終えて—	記念誌委員長・湯浅 勇夫… 8
特別事業委員会報告—	特別事業委員長・吉川 靖雄… 8
目標額を大きく上回った温かい心からの募金に感謝	
	募金委員長・伊藤 紀… 8
大理石像「フィオーレ」の制作—	昭 27 園卒業・伊藤 鈞… 9

記念庭園の造成にあたって	教諭・小笠原 崇… 10
記念講演 — バレーボール全日本女子代表監督・眞鍋 政義… 12	
旧職員より	旧職員・岩田 隆… 13
	旧職員・杉山 裕二… 14
	旧職員・谷澤 隆… 14
支部だより	稲沢支部・湯浅 勇夫… 14
	佐織支部・伊藤 義文… 15
	八開支部・吉川 靖雄… 15
	祖父江支部・伊藤 紀… 15
卒業生より	昭28普卒業・角田 泰利… 16
	昭38園卒業・田中 正文… 16
	昭44園卒業・近藤 硬… 16
在校生より	園芸科・藤本 巧… 17
	農業土木科・小野 友己… 17
	環境デザイン科・吉田 桃子… 17
	生活科学科・板津 美海… 18
百周年記念事業会計（中間報告）	… 19

式 辞

創立百周年記念事業実行委員会委員長

後藤 芳徳

本日ここに愛知県立稲沢高等学校の創立百周年記念式典を挙りましたところ、公私ともご多忙の中、愛知県教育委員会教育委員佐藤元英様を始め多くの来賓の方々にはご臨席の栄を賜り、誠にありがとうございます。

また、学校の先生、同窓会員、PTA会員の方々、在校生の皆さんのご出席をいただき、かくも盛大に挙行することができ、厚く感謝申し上げます。ことに、今日まで格別ご尽力を賜りました学校の先生、同窓会、PTAの方々には厚くお礼を申し上げます。

本校は、大正三年、大正天皇陛下の御大典記念行事として稲沢町高御堂の地に愛知県中島郡稲沢町立園芸学校として設立され、本年度百周年の記念すべき年を迎えました。創立から今日まで、社会情勢の変化や社会要請により、幾多の変革と変遷を経て今日に至りました。この間、学校の先生、

同窓会員、PTA会員の皆様方、関係機関の地域の皆様のご支援を得て、西尾張の農業関係の中心的な高等学校として発展してまいりました。

今回の創立百周年記念事業は、学校、同窓会、PTA、生徒会の四位一体となつて実現することができました。この創立百周年記念事業を成功させるため、数年前から企画委員会、実行委員会を組織しました。実行委員会では、四つの専門部会を設け、同窓会が主体となつて計画立案してまいりました。そして、平成二十六年十月三十日の本日に創立百周年の記念式典を行うことを決定いたしました。

企画委員会では、いろいろな意見をアウフヘーベーンしながら各専門委員会の意見を集約し、実行委員会の議を経て実行に移してきました。四つの専門部会は、記念式典・記念行事部、特別事業部、記念誌部、募金

部で、各支部の支部長・理事が四つの専門部に所属し、積極的、献身的に活動推進していただきました。専門部によつては数十回会議を重ねていただきました。

九十周年の時代よりも経済的に不安の中で、果たして創立百周年記念にふさわしい記念事業ができるか、心配でありました。特に、募金額が創立百周年記念行事を左右することを同窓会の支部長・理事さんが認識され、東奔西走してのご尽力と、会員の方々のご支援、ご協力により、不安は一掃されました。ここに厚く感謝申し上げます。

この行事を推進するに当たり、勤務の多忙な中、校長先生を始め多くの先生方の積極的なご尽力をいただき、厚くお礼申し上げます。

在校生の皆さん、二十一世紀を創造し発展させるのは皆さん達です。物で榮えて、心で滅びることのない二十一世紀をつくって下さい。皆

さんの先輩は、約一萬七千余名みえます。この先輩の方々の中には、政界、官界、経済界、学界で活躍してみえます。この先輩に続いて、それぞれ自分自身の人を確立し、生き甲斐を持つて社会に貢献して下さい。今日皆さんが存在するのは、両親、先生方のおかげであります。萬物の霊長である人間は報恩感謝の念を忘れず実践して下さい。

最後に、在校生の皆さん、この稲沢高等学校に在学している誇りを持って下さい。創立百五十周年は皆さんが中心的役割をして推進して下さいを願っています。

終わりにあたり、創立百



周年にご支援、ご協力をいただきました地域の方々、学校、同窓会、PTA、生徒会の皆さんに改めて御礼申し上げますと共に、今後とも本校に対しご支援を賜

愛知県教育委員会祝辞

教育委員 佐藤 元英

本日ここに愛知県立稲沢高等学校が創立百周年を迎え、記念式典が盛大に挙行されるに当たり、愛知県教育委員会といたしまして一言お祝いの言葉を申し上げます。

本校は、大正三年、稲沢町立園芸学校として、地域の皆様方の大きな期待を担つて開校されて以来、一世紀にわたり尾張地域の農業教育の中心校として、多くの優れた人材を輩出してこられました。稲沢市は全国屈指の植木、苗木の産地として広く知られておりますが、多くの本校卒業生が、こうした地域の産業や社会を支える主導的な役割を担つておられます。これもひとえに歴代の校長先生を始めとする教職員の皆様方

の熱意あふれるご指導と、生徒の皆さんのひたむきな努力によるものと存じ、深く敬意を表する次第です。また、本校の充実と発展のために、これまで温かいご支援をいただきました同窓会、保護者並びに地域の皆様方に心から感謝申し上げます。

さて、グローバル化や情報化の進展など、社会・経済が大きく変化する中、農業高校を始めとする専門高校には、こうした変化に対応できる力を身に付けた地域産業の担い手の育成が求められています。とりわけ農業分野においては、地球規模で環境保全の必要性が高まっていることや、安全な食糧を安定的に供給することが求められていること

りますようお願いを申し上げます。式辞といたします。

平成二十六年十月三十日
愛知県立稲沢高等学校
創立百周年実行委員長
後藤芳徳

などを踏まえ、新たな時代の持続可能な農業を支えるスペシャリストの養成が期待されており。

その意味において、本校がよき個人、よき市民、よき職業人を育てることを教育目標に掲げ、豊かな創造性と社会性を持ち、郷土を愛する心と高い職業意識を備えた若者の育成に向けて実践を積み重ねておられることは、誠に意義深いことと存じます。特に、収穫技術向上の研究や、伝統野菜の一つ、「治郎丸ホウレンソウ」の保存と普及、また木曾川堤の桜の手入れなどを通じて地域に貢献する姿勢と行動力を育む取組は高く評価されていると存じます。

生徒の皆さんには、先輩方が築いてこられたよき伝統を受け継ぎ、これからのためまめ努力を重ねられ、自信と誇りを持って地域の未来を支える人間に成長されることを期待しております。

校長先生を始め教職員の皆様方には、記念すべき百周年を機に、本校に寄せられる期待に応えるべく、教育内容の一層の充実を図り、本校のさらなる発展のためにご尽力いただきますようお願い申し上げます。

終わりに、本日ご臨席いただきました皆様方のこれまで本校にお寄せくださいましたご支援に対して重ねて御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。お祝いの言葉といたします。

愛知県立稲沢高等学校創立百周年、おめでとうございます。花を咲かせ未来の種、おめでとうございます。

稲沢高校の百周年、誠にありがとうございます。卒業生のOB、OGの皆様方、そして在校生の皆さん並びに実行委員長の後藤会長、林校長先生始め関係者の皆さんに心からお祝いを申し上げます。



来賓祝辞

参議院議員 大塚耕平

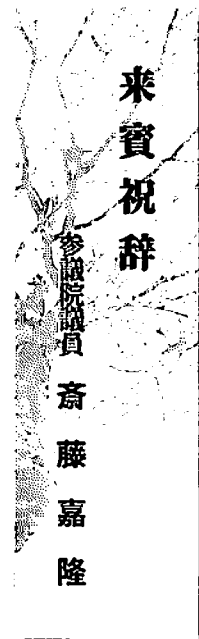


農業、そして農学校といえ、日本の近代農業をご指導いただいた有名なクラーク博士があります。北海道で農学校を開いたクラーク博士は、OB、OGの皆さんはよくご存じだと思いますし、在校生の皆さんも聞いたことがあると思います。クラーク博士の有名な言葉「Boys be ambitious」、女性もいらつしやいますので、「Boys and girls, be ambitious」、「少年よ大志を抱け」。まさしく日本の農業をこれから進歩させてほしい、そういう思いでおっしゃった言葉であります。ぜひこの大志を抱くという気持ちを在校生の皆さんには持っていていただきたいと思っております。

同時に、実はこのクラーク博士のお言葉には、後ろの部分があるそうです。「Boys, be ambitious like this old man」、自分のことですね。この老人のように、どうぞ若い皆さん、大志を抱いて頑張ってください。つまり、在校生の皆さんだけが頑張ればいいわけではなく、OB、OGの皆様方も、自分たちもこれだけ頑張ったので、在校生諸君、さらに頑張ってください。

来賓祝辞

参議院議員 斎藤嘉隆



今日は、愛知県立稲沢高等学校の百周年記念式典、このように盛大に開催されましたことを改めてお祝い申し上げます。また、申し上げたいと思っております。また、ここへ至るまで、実行委員会の皆さん、また先生方を始め多くの皆さんの大変なご苦労があったかと思っております。改めてそのご苦労にも敬意を表したいと思います。

今日、稲沢高校の百周年記念式典、このように盛大に開催されましたことを改めてお祝い申し上げます。また、申し上げたいと思っております。また、ここへ至るまで、実行委員会の皆さん、また先生方を始め多くの皆さんの大変なご苦労があったかと思っております。改めてそのご苦労にも敬意を表したいと思います。

今改めて、大正三年の開校とお聞きしました。一九一四年だと思っております。記憶が確かであれば、第一次世界大戦が勃発したまさにその年であったと思っております。その年にこの稲沢高校の前身である学校がスタートしたということです。これは本当にものすごいことだと思っております。このためでたい百周年に当たりまして、「Boys and girls, be ambitious like old days boys and girls」、この言葉をお贈りさせていただきます。ありがとうございます。



いく中でこの教育をどのよ
うに形づくっていくか、こ
れが全ての考え方のベース
にあるわけであります。そ
ういった意味で言うと、残
念ながら愛知県の高等学校
も恐らくこれから少しずつ
数を減らしていかざるを得
ないんだらう。子供の数が
減っていくものですから、
これはいたしかたのない一
定の事実だと思えます。そ
の中で、稲沢高校が次の
百五十年、二百年を目指し
ていくためには、どうすれ
ばいいのか。ぜひこういった
ことを学校関係の皆さん、
OBの皆さん、そして在校
生の皆さんが力を合わせて
お考えをいただく必要があ
るのかなと思つています。
簡単に申し上げれば、オ
ンリーワンの学校を目指す
ということだと思えます。

私は、稲沢高校にはその素
養が十分にありまじし、恐
らく間違いない百年後もこ
の創立二百周年を記念する
大きな会が挙行されるので
はないかなと思つておりま
す。時代は大きく変容して
いきます。十年先が見通せ
ない時代が間もなくやって
くると思つています。その
中でたくましく生きていく
ために、本当にいろんな変
化に柔軟に対応できる力を
学校での生活を通じてぜひ
身に付けていただきたとい
うことも助言させていた
だきたいと思つてます。

地域の農業の振興や地域の
発展に有為な人材を多く輩
出されました。心から敬意
を表し、百年の大きな節目
を契機に、稲沢高校のさら
なるご発展と同窓の皆様
のご活躍、ご健勝をお祈り申
し上げます。
(当日、国会開会のため、
秘書今川徳治様代読)



来賓祝辞

愛知県議会議員 久保田浩文

稲沢高校創立百周年、心
よりお祝いを申し上げます。
また、このようなすばら
しい式典を計画されました
実行委員会後藤会長を始め
皆様方には、心より感謝を申
し上げるものであります。

た。これもひとえに生徒の
皆さん方のご努力はもとよ
りでありますが、歴代の校
長先生や、あるいは教職員
の皆様方、また同窓会、保
護者、そして地域の皆様方
の温かなご支援のたまもの
だと思つております。心よ
り敬意を表し、感謝を申し
上げるものであります。

今この時代はさまざま
な課題が我が国、我が地域
を覆っている時でありま
す。少子高齢化、あるいは
グローバル社会の進展、こ
うしたことを始め環境問題
や、地球規模では人口増に
なつておりますが、我が国
では人口減少も大きな喫緊
の問題でもあります。こう
した中であつて、地域の
地場産業を支える、あるい
は農業を支えるその教育実
践のもとで、今の課題を乗
り越えて、将来をしっかりと
展望できる心豊かな、ある
いは意欲のある若者を教育
し、そして成長を育んでい
くお手伝いをしておられる
ことは、誠に意義深いもの
であると存する次第であり
ます。どうぞこれからもそ
うした教育活動に、ここに
お見えの皆様方はもとよ
り、学校関係者の皆様方に
特に力を入れていただけれ
ば、と心より願う次第であ
ります。

そして、在校生の皆さん、
皆さんにはすばらしい先輩
がたくさんおみえでありま
す。そうした皆さん方のこ
れまで築いてこられました
歴史と伝統をしっかりと受け
継いでいくことはもとより
であります。どうぞ今こ
の時代に生きていく皆さん
が友人をたくさんつくって
いただきたい、信頼のでき
る友をたくさんつくってい
ただきたい。友人は生涯の
財産となります。あわせて、
厳しい問題が横たわる今の

来賓祝辞

衆議院議員 長坂康正

県立稲沢高校の創立百周
年を心からお喜び申し上げ
ます。本日、その輝かしい
歴史にふさわしく、同窓生
の皆様のご尽力で立派な記

念事業、記念誌の作成、本
日の式典のご盛会をお喜び
申し上げます。
稲沢高校は、長年にわた
り、稲沢市はもとより尾張

この実り豊かな濃尾平野
の中心に位置し、そしてそ
の時代時代をしっかりと踏ま
えた農業を中心とする学校
として、農業者はもとより
でありますが、それぞれの
地域、あるいはそれぞれの
企業のリーダーとして活躍
される優秀な皆様方をたく
さん輩出してこられました

た。これらもひとえに生徒の
皆さん方のご努力はもとよ
りでありますが、歴代の校
長先生や、あるいは教職員
の皆様方、また同窓会、保
護者、そして地域の皆様方
の温かなご支援のたまもの
だと思つております。心よ
り敬意を表し、感謝を申し
上げるものであります。

今この時代はさまざま
な課題が我が国、我が地域
を覆っている時でありま
す。少子高齢化、あるいは
グローバル社会の進展、こ
うしたことを始め環境問題
や、地球規模では人口増に
なつておりますが、我が国
では人口減少も大きな喫緊
の問題でもあります。こう
した中であつて、地域の
地場産業を支える、あるい
は農業を支えるその教育実
践のもとで、今の課題を乗
り越えて、将来をしっかりと
展望できる心豊かな、ある
いは意欲のある若者を教育
し、そして成長を育んでい
くお手伝いをしておられる
ことは、誠に意義深いもの
であると存する次第であり
ます。どうぞこれからもそ
うした教育活動に、ここに
お見えの皆様方はもとよ
り、学校関係者の皆様方に
特に力を入れていただけれ
ば、と心より願う次第であ
ります。

そして、在校生の皆さん、
皆さんにはすばらしい先輩
がたくさんおみえでありま
す。そうした皆さん方のこ
れまで築いてこられました
歴史と伝統をしっかりと受け
継いでいくことはもとより
であります。どうぞ今こ
の時代に生きていく皆さん
が友人をたくさんつくって
いただきたい、信頼のでき
る友をたくさんつくってい
ただきたい。友人は生涯の
財産となります。あわせて、
厳しい問題が横たわる今の



来賓祝辞

稲沢市長 大野 紀 明

稲沢高校は、大正三年、稲沢町大字高御堂の地に稲沢町立園芸学校として創立され、昭和二十四年、愛知県立稲沢高等学校と改称されました。その後、昭和四十六年に普通科が稲沢東高校へ分離されました。農業を中心とした高等学校として今日まで歩みを着実に進めてこられました。

稲沢高校は、「よい個人を形成する、よい市民を育成する、よい職業人を養成する」を教育目標として掲げられ、数多くの優れた人材を輩出されるところに、地域に根差した農業高校として、名実ともに輝かしい発展を続けられ、ここに創立百周年を迎えられましたことは誠に喜ばしく、心からお祝いを申し上げます。

稲沢高校は、大正三年、稲沢町大字高御堂の地に稲沢町立園芸学校として創立され、昭和二十四年、愛知県立稲沢高等学校と改称されました。その後、昭和四十六年に普通科が稲沢東高校へ分離されました。農業を中心とした高等学校として今日まで歩みを着実に進めてこられました。

さて、我が国の農業に目を向けますと、担い手の高齢化や減少、経済のグローバル化による農産物価格の低迷など、大変厳しい状況に置かれております。この難しい局面を乗り切るためには、専門的な知識、技術を身に付けた創造性豊かな農業後継者の育成が極めて重要となつてきております。このような状況のもとで、稲沢高校が農業に関する

の発展に多大な貢献をしておられ、本校の誇りとするところであります。同時に、これまでの県教育委員会のご高配はもとより、稲沢市を始め地域市町村のご援助、同窓会やPTAの皆様のご協力、歴代校長と教職員の方々のご努力に対し、深く感謝申し上げます。

本校は、百年の歩みの中で、それぞれの課程や学科が大切な役割を担い、成果を収めて参りました。この歴史の源流となり、変遷の底を流れて今日の姿を形づくっているのは、農業教育であります。

本日ここに、愛知県立稲沢高等学校創立百周年記念式典が、愛知県教育委員会教育委員佐藤元英様を始め多数のご来賓のご臨席の下、かくも盛大に挙行できましたことは、私ども教職員、生徒一同にとりまして、この上ない喜びでございます。また、記念事業の実施に当たり、同窓生の皆様を始め、協賛企業様、保護者様、PTA役員のごOB会である稲和会様、そして旧職員の皆様など、関係各方面の皆様の心温まるご芳志を賜

の発展に多大な貢献をしておられ、本校の誇りとするところであります。同時に、これまでの県教育委員会のご高配はもとより、稲沢市を始め地域市町村のご援助、同窓会やPTAの皆様のご協力、歴代校長と教職員の方々のご努力に対し、深く感謝申し上げます。

農業は、文字どおり「国の礎」として、我が国と私たちの命と暮らしを支えてきました。そして、新たな世紀を迎えた今、農業の意義が再認識されています。農業は、食料を供給するだけでなく、水を育み、国土を保全し、緑豊かな景観をつくり出すと同時に、地域の文化を生み出す産業として、注目されています。本校では、農業の専門教育を、実際に生き物を育て、



校長謝辞

校長 林 広 志

稲沢高校は、「よい個人を形成する、よい市民を育成する、よい職業人を養成する」を教育目標として掲げられ、数多くの優れた人材を輩出されるところに、地域に根差した農業高校として、名実ともに輝かしい発展を続けられ、ここに創立百周年を迎えられましたことは誠に喜ばしく、心からお祝いを申し上げます。

稲沢高校は、大正三年、稲沢町大字高御堂の地に稲沢町立園芸学校として創立され、昭和二十四年、愛知県立稲沢高等学校と改称されました。その後、昭和四十六年に普通科が稲沢東高校へ分離されました。農業を中心とした高等学校として今日まで歩みを着実に進めてこられました。

さて、我が国の農業に目を向けますと、担い手の高齢化や減少、経済のグローバル化による農産物価格の低迷など、大変厳しい状況に置かれております。この難しい局面を乗り切るためには、専門的な知識、技術を身に付けた創造性豊かな農業後継者の育成が極めて重要となつてきております。このような状況のもとで、稲沢高校が農業に関する

の発展に多大な貢献をしておられ、本校の誇りとするところであります。同時に、これまでの県教育委員会のご高配はもとより、稲沢市を始め地域市町村のご援助、同窓会やPTAの皆様のご協力、歴代校長と教職員の方々のご努力に対し、深く感謝申し上げます。



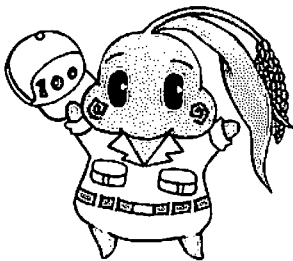
物をつくりながら展開して
います。この過程で、慈し
み思いやる心、額に汗する
ことを厭わぬ態度、助け
合い協力する姿勢など、人
としての資質も磨かれ、こ
のことが本校を果立った後
に地域の産業と社会の発展
に貢献できる力となってい
るのです。

私ども教職員並びに生徒
一同は、記念すべき百周年
の節目にあたり、本校が果
たすべき役割を再認識し、
諸先輩の偉業を受け継ぎ、
良き伝統を一層発展させる
とともに、時代や地域の期
待にお応えできるよう、今
後も鋭意努力する所存で
す。

終わりにのぞみ、本日は

誓いの言葉

生徒代表 後藤孝太
山田恵子



臨席賜りました皆様方の
数々のご厚情に重ねて感謝
申し上げ、今後とも一層の
ご指導、ご支援を賜ります
ようお願い申し上げます。
お礼の言葉とさせていただきます。

平成二十六年十月三十日
愛知県立稲沢高等学校長
林 広志

日頃見慣れた風景が、新
たな意識の芽生えとともに
決意と飛躍を思い起こさせ
る今日よき日、私たちが在
校生一同は、愛知県立稲沢
高等学校創立百周年記念式
典に参列できましたことを
大変喜んでいきます。

本日のこのような栄えあ
る記念式典に、多数の来賓
の方々、諸先輩方のご臨席
を賜りましたことを、在校
生を代表して心からお礼申
し上げます。
今年、本校は創立から百年
という節目の年を迎えまし

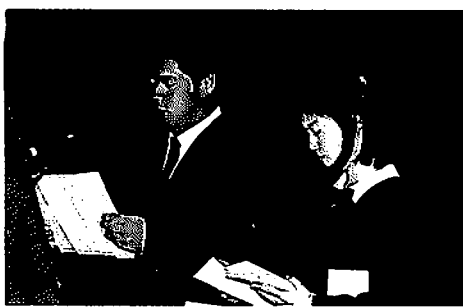
た。深き泉を友と汲み、高
き理想を土に鰐て、今日まで
の足跡を築いてこられた先
輩方の努力と、地域社会の
皆々様に支えられてきたこ
の稲沢高校の歴史と伝統に
改めて思いをはせ、自らが
その一員であることを実感
し、誇りを強くしました。

本校では、「よい個人を
形成する、よい市民を育成
する、よい職業人を養成す
る」という教育目標の下、
各学科で特色のある経験を
積むことができます。それ
らの実習の中で、園芸科で
は植物を通して生命の息吹
をとらえ、農業土木科では
土木技術を研究し美しい国
土をつくり、環境デザイン
科では緑豊かな環境と快適
な生活空間を創造し、生活
科学科では豊かな心と生活
の創造を目指すことで、私
たちは真夏の暑さや真冬の
伊吹おろしにも負けない強
い精神力を身に付けること
ができました。また、台湾
への修学旅行により、広く
世界を知る機会に恵まれま
した。このような学習を通
して身に付けた力は、一人
ひとりの目標実現に向けて
の大きな力となり、卒業さ
れた諸先輩方の社会での活
躍へとつながっています。

私たちはこれから、先輩
方が築いてこられた百年間
の思いと実績を胸に、未来
に向けてそれを受け継ぎ発
展させ、農業という人類の
基幹となる産業の担い手と
して、より地域から必要と
され、地域に貢献できる人
材になることをここに誓い
ます。

ご臨席の皆様には、これ
からも稲沢高校と私たちを
温かく見守って下さいませ
ようお願い申し上げます。生
徒代表の言葉といたしま
す。

平成二十六年十月三十日
生徒代表
三年一組 後藤孝太
三年五組 山田恵子



創立百周年記念式典概要

教諭 水野 晋

天候にも恵まれた秋晴れ
の中、平成二十六年十月
三十日(木)、名古屋文理
大学文化フォーラムにおい
て、創立百周年記念式典が、
来賓、旧職員、同窓生、P
TA、協賛企業の方々のご
臨席を賜り、教職員、全校
生徒が参列し、盛大に挙行
されました。

午前十時、伊藤紀記念事
業実行委員会副委員長の開
式の辞で始まり、物故者に
対する黙禱が捧げられ、続
いて国歌を斉唱いたしました。
後藤芳徳記念事業実行委
員会委員長の式辞があり、
続いて愛知県教育委員会祝
辞を教育委員佐藤元英様よ
り賜り、来賓祝辞として、
参議院議員大塚耕平様、斎
藤嘉隆様、衆議院議員長坂
康正(代理)様、愛知県議
会議員久保田浩文様、稲沢
市長大野紀明様から、それ
ぞれ心温かい励ましの祝辞
をいただきました。

来賓紹介、メッセージ並
びに祝電披露があり、続け
て、吉川靖雄記念事業委員
会副委員長から本校の発展
のためにご尽力、ご貢献を
いただいた方々の紹介があ
り、特別表彰者を代表して
伊藤鈞様と塚本忠男様に、
特別功労者・永年役員功労
者・永年勤続者・三世代表
彰者を代表して木村篤様
に、委員長より感謝状と記
念品が贈呈されました。
引き続き、後藤実行委員
長より校長に記念事業の目
録が贈呈されました。



林広志校長より謝辞が述
べられ、生徒代表後藤孝太
君と山田恵子さんから心強
い誓いの言葉があり、一同
爽やかな気持ちで校歌を斉
唱し、永井龍右PTA会長
の閉式の辞をもって厳肅の
うちに、式典を終了しまし
た。

記念誌の編集を終えて

記念誌委員長 湯浅勇夫

平成二十三年度から本年度までの四年間、都合五十回を超す委員会を開催しました。最初の会議では、どんな記念誌にするのか、検討を重ねました。その後、構成案づくりから始まり資料収集、原稿の執筆編集へ進むに従い様々な問題点が出てきました。

座談会では、日時の設定ができず、日だけが過ぎる時期が永らく続きました。そこで、これまでの座談会を諦め、最初の企画となる「誌上座談会」形式に切り替えました。

また、記念誌の百年のあゆみは、稲高百年の歴史を網羅した唯一の学校史として、未代まで伝えたい内容をコンパクトに綴ったものであります。七十周年までの原稿は、時代毎に記念誌委員の同窓生が分担し身を削る思いで取り組まれました。しかし、この執筆は学外の方にとって極めて難しく、そのため

提出が大幅に遅れ、危機的な状況に陥りました。四月ごろ、私は、記念誌はもうできないかも知れない、と思っていました。

最後の原稿が二十六年五月の連休明けに提出され、直ちに全ての学校史原稿に内容の補充や修正を加え整理が行われました。その原稿は、原稿渡しを急ぐ余り縦書きの資料や掲載順序も前後しており第三者から見ても分かりづらいものでした。六月上旬に、印刷業者に原稿を渡そうとしましたが、受け取って貰えず、印刷業者からは逆に、本来、原稿渡しは一月末と二月末になっていた筈だ、とお叱りを受けました。

一週間後に、岡田教頭先生が横書きに整理されたものを、印刷業者に受け取って貰えたときには、本当に肩の荷が下りた気がしました。このように一時発刊を諦めかけていた記念誌が、皆様方にお届けできました

のも記念誌委員の皆様のおかげです。編集に携わられた関係者の方に、ここに改めて敬意と感謝の意を表します。併せて、ご寄稿や貴重な資料をお寄せ頂いた

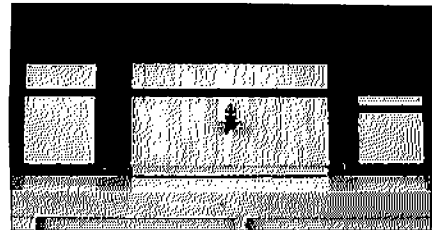
の方々に衷心よりお礼を申し上げます。終わりに、この記念誌には誤謬が多々あるうかと思いますが、皆様方何卒ご理解とご容赦を賜りたいと存じます。

特別事業委員会報告

特別事業委員長 吉川靖雄

百周年記念式典が無事終了しました。同窓生として感謝にたえません。皆様のおかげであります。特別事業委員会では、体育館の演台一式、記念庭園、記念樹木の名札、広告、高額募金者、永年勤続役員、永年勤続職員、百周年記念として、三世代卒業生等感謝状、記

念品等が協議され、企画委員会、実行委員会の決定の上、施工実施されました。主たる事業は記念庭園であります。庭園のイメージ図案は生徒から募集し先生、施工業者の意見を入れ設計図としました。その中心に筑波大学名譽教授の伊藤鈞先生から寄贈していただいた彫像（フイオーレ）を配置しました。本庭園は稲高百年の足跡を偲ぶとともに、新たな伝統の創造とさらなる飛躍を祈念し、造成したのであります。東西二つの区画では陰と陽を形取ることで万事を示し、大理石彫像を中心に無限大の軌跡に配置した石組とシンボルによって無限の可能性を表しました。東



側の区画は伊豆産の希少な六万石組で歴史の変遷を辿り、北の三石で園芸学校、農学校、農業高等学校を、西の三石で定時制課程の農業科、家政科、普通科を、南の三石で本校、佐屋高校、稲沢東高校、さらに東の四石で現在の四学科を表しました。一方、西側の区画は、北に農学校の門柱、西に教育目標碑、南に庭園記念碑、東に彫像を配し、各モニュメントで本校の過去と未来

を象徴したのになっております。施工は菱甲園様昭和三十八年卒）に依託しました。十月二十九日に関係者出席の上で竣工式が行われ、施行者に感謝状と記念品が贈呈されました。同窓生の皆さんも記念庭園をぜひ御覧ください。最後に募金に協力された方々、業者の方々を始め、関係各位に感謝をし報告とします。ありがとうございました。

目標額を大きく上回った 温かい心からの募金に感謝

募金委員長 伊藤 紀

母校が創立百周年にあたり、伝統ある学校の最も大きな行事であり、立派な行事となるように四年前より役員一同取り組んできました。四委員会が設けられ、はからずとも私が募金委員長を引き受けることとなりました。私は七十周年より記念行事に携わってきました。九十周年記念行事には、会員名簿の委員長として働かせていただきました。さて事業を計画し充実した中身にするには募金を集

めることが先ず肝要であり、主とした委員会を立ち上げました。企画委員会で募金目標額を二千万円（一口五千元）としました。募金委員会にはかつたところ、それでは目標額に達することができないと意見があり、一口五千元、できるだけ二口以上をお願いしたいといたしました。又、お願いに行くときに、何か記念の品を持つていくのが良いとのこと、生徒

の優良標語、マスケットをデザインしたタオルを作りました。また五名で募金趣意書作成委員会を作り、従来の文章でお願いするのではなく、母校の姿、時代ごとに変わっていった校章、校歌などを配置し、同窓生が学生時代を思い起こすような趣意書をつくりました。平成二十五年五月に同窓生、関係者に郵送しました。九月より支部役員、世話人の方々に募金活動をしていただき、十二月終りには二千五百万円となり一段と事業に大きな弾みになりました。

平成二十六年十二月十日 現在

募金 二、四五八件

二七、四〇、七六、五円

七五社

三、六四〇、〇〇〇円

雑収入三、六六七、二四七円

(二百九十九周年から繰越)

計 三四、四四八、〇二二円

このような多額の募金を

いただき、涙を流して喜び

ました。この間、役員、多

くの同窓生、関係者の支え

により大役を果たせたこと

は私の人生で最大の喜びで

あり、感謝の念で一杯であ

ります。

大理石像「フィオーレ」の制作

昭和二十七年國芸科卒業 伊藤 鈞

この度は、益々発展している母校である稲沢高等学校の百周年記念に、私の拙い大理石像「フィオーレ」を設置していただき大変光栄に存じております。

また記念式典と併せて、この像の設置式典にもご招待賜りましたこと本当にうれしく存じております。諸先生方や同窓の諸先輩のたゆまぬご支援ご協力に改めて感謝申し上げます。次第です。



を石膏に型取りして、大理石を彫るための原型としました。

大理石の原石は、かつて私が留學中に学んだイタリア・フィレンツェ郊外のカラーラで産出される白大理石を用いました。この大理石は太古の時代に深い地層から表出したとても硬度の高い大理石で、日本の山口や北九州などで採掘される白大理石とは異なって、きわめて硬度で、風化にも強い耐久性のある大理石です。

白大理石の彫刻には、電動の小さなカッターなどの工具は使用しましたが、あとは鑿とハンマーによる手彫りで行いました。夏も冬も通して約二年半ほど制作にかかりました。助手は使わず私一人での大理石との格闘といったような有様でした。

「フィオーレ」はイタリア語で「花開く」という意味です。イタリア留學中にローマ郊外の畑で見たひまわりの花々を思い、朝日に向かって開花するそのすがすがしい様子を思いうかべながら彫刻の構想をすすめました。

はじめは粘土で1/2の大きさの原型を作り、それ

入れは全て自分でやりました。日本のみかげ石彫刻用の鑿は、大理石には全く役に立たないためです。電動のふいごや木炭コークスなども用意しました。

私はこれまでに、大理石によるモニュメントを、山口県山口市に「原爆死没者の碑」と「戦没学徒の碑」、そして富山県黒部市に「アレトウツサの泉」、筑波大学構内に「メタモルフオーゼ」、また海外では台南市彫刻公園にも設置させていただきました。大理石像の他にはみかげ石や黒みかげ石の彫刻も制作しました。

「播磨」の像のようなプロンズのモニュメントは茨城県内のつくば市内のほか、北海道釧路市、山口市、富山市、秋田市、鹿児島市などにも設置されております。留學中に師事したローマ美術大学のファッチーニ教授やカララ美術大学のポイディマーニ教授などの恩師により、モニュメント彫刻の在り方を学びました。そして古代のギリシャ彫刻や、古代ローマ彫刻の現存品の多くを見て知ることもできました。一例としては静止した像の中に、見るものに精神的には前後の

動作を感じさせる様な姿を彫刻することを学んだ次第でもあります。

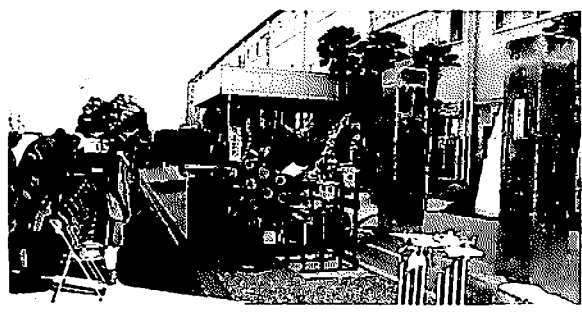
私はなつかしい故郷の稲沢の地に、「フィオーレ」の像を設置させていただけたことを、とても光栄に思い、限らない喜びとしております。どうかこの像が未永く生き続けていくことを心より願っております。

どうかこの母校である稲沢高等学校が百周年を期に、益々発展して多くの優秀な卒業生達が果立っていくことを心より願っております。本当にいろいろとご厚遇を賜り、ありがとうございます。

手彫用の鑿も日本国内にはありませんので、鋼材を入手し、切断鍛造して焼き

仕上げに近くなつての石の表面のみがきも、手やすりと砥石でやりました。電動グラインダーなどでやると、大理石の表面が加熱による白濁で透明感が失われてしまうためです。

手彫用の鑿も日本国内にはありませんので、鋼材を入手し、切断鍛造して焼き





庭園

設計趣旨

本庭園は、稲沢高校百年の足跡を偲ぶとともに、新たな伝統の創造とさらなる飛躍を祈念し、造成された。東西二つの区画では陰と陽を形取ることで万事を示し、∞（無限大）の軌跡に配置した石組とシンボルによって無限の可能性を表した。東の区画は六方石組で歴史の変遷を辿り、北の三石で園芸学校・農学校・農業高等学校を、西の三石で定時制課程の農業科・家政科・普通科を、続く南の三石で本校・佐屋高校・稲沢東高校を、さらに東の四石で現在の四学科を表した。一方、西の区画は、北に農学校の門柱、西に教育目標碑、南に庭園記念碑、東に彫像を配し、各モニュメントで本校の過去と未来を象徴したものである。



記念庭園の造成にあたって

教諭 小笠原 崇

創立百周年記念事業の一つとして、多くの人に見ていただける場所である正門近くの前庭に記念庭園を造成することになりました。

記念庭園事業は筑波大学名誉教授伊藤鈞先生より彫像をいただくことから始まりました。その彫像は「FIORE」（開花）と題し、平成二十五年七月下旬に伊藤先生宅へ彫像の下見に同窓会関係者で行きました。その後、搬入計画を立て九月中旬に菱甲園様の協力のもと彫像を本校へ搬入しました。

創立百周年にふさわしい記念庭園



記念



にすべく、いただいた彫像を庭園の中心にし、百年の歴史が感じられ、さらに未来に繋がるイメージで作庭する方針となりました。一月下旬にこのイメージで生徒に図面を募集しました。三月上旬頃に環境デザイン科の三年生の生徒二人によって提出された図面がイメージに近いということで採用されました。

平成二十六年より図面の完成度を上げる取組を一学期かけて行いました。具体的には、イメージ図を生徒、職員と菱甲園様とで協議をしていき、最先端のCADソフトで立体イメージ図を作成し、またミニチュアの記念庭園を作成し、さらには石庭の見本として岐阜県の護国寺に見学に行くなどしました。そして、生徒らが考えた記念庭園のテーマが「無限の開花」となり、設計趣旨も決定し、特別事業委員会の皆様のご賛同をいただき、図面が完成しました。八月五日に記念庭園作庭の地鎮祭を菱甲園様と本校職員で簡易に行い、八月二十二日に学校目標碑と農学校時代の門柱を移設しました。順調に作庭が進行し、八月下旬に六方石庭が完成し、九月十三日に門柱周りの施工も完成し、十月一日に庭園の中心である「FLOWER」や百周年記念庭園碑が設置され、十月十五日に遂に完成を迎えました。

今回、多くの皆様方に支えられ、完成することができましたことに改めて厚くお礼申し上げます。また、生徒たちが作庭に関わることができ、生涯の思い出となるような貴重な機会を与えていただいたことに深く感謝いたします。

記念講演

「ロンドン五輪銅メダル獲得の道のり、そして未来へ」

バレーボール全日本女子代表監督 眞鍋 政 義

全日本男子選手当時、貴校の高橋先生がマネージャーをしており、そのご縁で今回引き受けしましたが、高校生の前で話をするのは初めてです。

私は、世界遺産の姫路城の真下で生まれ、中学校一年生からバレーボールを始めました。高校は、名門中の名門と言われる大阪商大高校です。三年間で三回しか日本一になれず、あと三回が準優勝です。毎日、学校が終わる三時半ぐらいから十時ぐらいまで、厳しい練習です。一年間休みはなく、唯一、日本一になった翌日だけが休みで三年間で三日間だけ休めました。その後、大阪商業大学を経て、新日鉄に入社しました。三十歳から三十六歳まで六年間、監督兼務プレイングマネージャーをしました。新日鉄を退社後、当時世界でナンバーワンのリーグ、イタリアセリエAに行

きました。その後、旭化成、パナソニックを経て、四十一歳で現役を引退し、同時に久光製薬の女子チーム監督になりました。更に二〇〇八年から代表の監督になりました。現在に至っております。監督に就任して、私は選手とスタッフに「ロンドンオリンピックはメダルを獲ろう。」と言いました。

監督として一番大事なことは、「言動を一致させる」、「カリスマ監督ではない、監督はモチベーター」、そして「オリンピックでメダルを獲るためには、やれることは何でもやる」、この三つを徹底してやっています。そしてもう一つ、「間があるスポーツは、プラス思考が最後は勝つ」。間があるスポーツ、バレーボールは、審判の笛から笛まで少し時間がありますし、ローテーションもします。オリンピック決勝戦、勝て

ば金メダルという時に、五セット目、15対15でサーブが回ってきました。少し時間があります。ボールをもらって打つまで、そこで何を思うかです。「やばい、どうしよう」と思うのか、「やった、今日は私がヒロインだ」と思うのか。スポーツはやはり「最後は私」と思わないとダメなんです。今の選手の八割はマイナス思考です。ですから、プラス思考になるように、日々いろいろと勉強したりしています。

「継続は力なり」。ある日、卓球の練習を見せてもらいました。福原 愛ちゃんは、北京オリンピック、銅メダルマッチで負けました。愛ちゃんは、自分の専用の練習台に負けた瞬間の写真を貼っていました。そして四年間、練習する前に、負け時の悔しい気持ちを一分間、ぐーっと思つて練習したそうです。その結果、ロ

ンドンオリンピック銀メダルです。私、選手にも言うのは、継続は力なり。当然技術もそうですけれども、悔しい気持ちを長く持てる選手は一流選手になります。二流選手は、悔しいこともすぐ忘れます。ですから、この継続は力なりという言葉は非常に意味があると思つています。

バレーボール選手は十四、五名いますが、スタッフもこれだけいます。ですから、全体で三十名ぐらいです。その選手、スタッフが一致団結しないと、バレーボールは勝てません。「監督はモチベーター」。選手によつて、褒めるタイミング、怒るタイミング、場所を決めています。選手の髪の毛の色、髪型もチェックしています。マネージャーの女性が私に報告します。誰が色を変えて、髪を切ったか。それを聞いて、その日の練習は少し早めに行きます。木村なら木村に「木村、おまえ少し色を変えたか?」、監督、わかりますか?、「わかるよ」と言うだけで、一週間ぐらいモチベーションが上がります。これは間に合っていますね。

客観的なデータの活用。

ロンドンオリンピックの一月前、背番号を変え、同じ髪型にしようという選手に言いました。理由は簡単です。全世界の監督・選手は、他の国の選手の背番号と名前を全部言えます。ですから、相手チームも背番号を変えられると非常に混乱するんです。だから、背番号を変えようと言いました。最終的に背番号だけ変えませんでした。もし、選手が同じ髪型をしてくれたら、私は金メダルを獲ったなと思つています。

どうやってオリンピックで二十八年ぶりに勝ったか。当時名譽会長の松平さんに私が監督に就任してすぐ呼ばれました。「眞鍋、君の目標は何だ」、「私の目標は、次のオリンピックでメダルを獲りたいです」と言われました。

「ふざけるな、そんな簡単にメダルなんて獲れないよ」と。その時に言われた言葉です。「非常識を常識に」。世界でも一番背の低い日本選手がオリンピックでメダルを獲るためには、世界と同じことをやっても勝てない。「眞鍋が口



す」と言うと、怒られました。「ふざけるな、そんな簡単にメダルなんて獲れないよ」と。その時に言われた言葉です。「非常識を常識に」。世界でも一番背の低い日本選手がオリンピックでメダルを獲るためには、世界と同じことをやっても勝てない。「眞鍋が口

私はふと、いろんなスポーツのルールを考えました。バレーボールは、ボールが



床に落ちたら点数が入りません。ここです。簡単に言えば、床に落ちなかつたら点数は入らない。逆転の発想です。今までは背の高い選手をずっと探していました。でも、日本にはいません。それなら逆転発想、何をやったか。高さ、パワーを追求するのはやめよう。特にレシーブは頑張ろう。三年半、毎日相手コートに男性の1m90cmを超える選手を呼んできて、選手をめぐって思い切り打つ。この距離、4mぐらいです。三年半、やり続けました。これがまさしく「非常識を常識に」です。そうすると、

試合中にロシア、アメリカ、ブラジルがアタックを打ってきてても、そのスピードが遅く感じて、レシーブできないようになります。

ロンドンオリンピックの一週間前、練習中に竹下の左手の人差し指、第一関節に斜めにすばつとひびが入っていました。それを見た瞬間、私は「ああ、終わっただ」と思いました。

最終登録日の七月二十六日、本人を呼んで二人きりで話をしました。「おまえ、本当にできるのか」と。「できます」と言つて、オリ

ピック二週間をやり通しました。選手やスタッフには一切言っていない。知っているのは、私、竹下、ドクター、トレーナー、四人だけです。普通では考えられませんが、根性じゃないです。恐らく執念です。シド

ニーオリンピックで日本女子バレーはオリンピックに行けなかつた。竹下はとその気持ちを持っていて

んです。ですから、オリ

ピックをやり通しました。我々はいつても、大事な試合前に五分間ぐらいのモチ

ベーションビデオをつくり

ます。それを選手、スタッフ

が小さな部屋でその映像

を見て、さあ明日頑張るぞという一致団結ビデオです。選手、スタッフは当然

号位です。これを見て、チームがぐつと一つになるんです。オリンピック最終日の前日、そのモチベーションビデオをご覧ください。

トークショー

本校の高橋教諭が質問し、真鍋監督がお答えする形式で対談を行いました。主な内容を紹介します。

質問1..監督は銅メダルを

持っているか。

真鍋..世界選手権、ワールドカップはもらえるが、オリンピックだけでももらえない。

質問2..選手が表彰台に上がった瞬間の気持ちはどう

であったか。

真鍋..うれしい反面、悔しい思いである。我々はオリンピックに人生をかけている。一番輝いているメダルに挑戦して、最後三位

ということだったの

で。

プに分かれ、なかなか一つにまとまらない。最終的にはコミュニケーション。選手の性格を大半把握している。この選手は褒めたほうがいいとか、この選手はちよつと怒っていてもいいとか。

質問4..世界の選手と比較して日本選手はどうか。

真鍋..世界の女子バレーには、1m95cm以上の選手が

たくさんいる。反対に日本は、ロンドンオリンピックよりもまだ低くなっている。

質問5..来年開催される

ワールドカップの位置付け

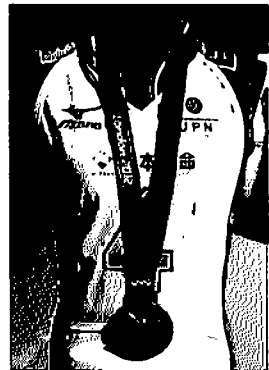
は。

真鍋..ワールドカップ一位と二位がオリンピックの出

場権を獲得する。このワールド

カップでオリンピックの出

場権を獲得し、リオ・オリ



旧職員より

心のふるさと「稲高」

旧職員 岩田 隆
昭和十八年(昭和四十一年在職)

創立百周年記念まことに

お目出とうございます。

拙宅の玄関の靴箱の上には石組の庭をあしらった文

様の大皿が飾ってあります。訪問者の目にはまずこ

れが飛び込んできますが、この大皿は実は稲高の創立

五十周年記念の際の記念品

です。あれからすでに半世紀も経過したと思うと感無

量のものがあります。

私が稲高に着任した昭和

三十八年当初は生徒の急増

期に当り、いわゆるマンモ

したので、日々の仕事の関心はほとんど生徒と教員のことしかなかったのですが、後年学校管理者の職に就いてその立場から当時の稲高を振り返った時、その学校経営は容易ではなかったと想像しました。というのは、このような複雑な学校組織の下では学校の特色が出しにくく、教育目標も絞りにくかつたと思われるからです。それでも、農業科があつたこともあつて、当時としては地域社会との触れ合いは割と活発で、生徒もそれによく関与していたと思います。餅つきなどの行事もよき思い出です。しかしその頃はまだ自動車で通勤する教員はほとんどなく、生徒も純朴で、全体的にのびやかな校風でした。 当時は日本の経済成長が始まった頃で、それを助長する機運になったのが昭和三十九年に開催された東京オリンピックでした。稲高も一役担った聖火リレーを、学校を挙げて見学に行つたことが特にはつきりと記憶に残っています。行事では、体育大会が各科の特色を示す楽しいイベントであり、特に農業土木科がその得意の技術を發揮して

精巧で大掛かりなマスク
トを製作したのが印象的
でした。

校門あたりから見た稲高
のたたずまいは昔とほとん
ど変わらないという印象で
すが、教育活動や校風はず
いぶん変わったのではない
かと推察します。県下有数の
伝統と実績を誇る専門高校
として、この大きな節目に
当たり、スローガン通り未
来に向けて新たな種を播い
てそれを着実に育てられる
ことを願ってやみません。

創立百周年に寄せて
田職員 杉山 裕二
昭和四十八年、昭和五十七年任職

昭和四十八年度から保健
体育科の新任として赴任
し、七年間お世話になりま
した。在職中昭和四十九年
に六十周年記念式典があり
ましたが失礼ながら余り印
象に残っていません。今回
百周年記念式典の案内を頂
いた時、初めて教職につい
た学校という思い入れが強
く是非出席しようと思いま
した。式典は肅々と進めら
れ百年という歴史の重み
を感じた次第です。

記念講演はバレーボール
全日本女子代表監督眞鍋政

義氏より「ロンドン五輪銅
メダル獲得の道のり、とし
て未来へ」と題して講話が
ありました。女子指導の難
しさや、勝負師としての一
端をユーモアを交えて話さ
れました。種目の違いこそ
あれ同じ運動の指導者とし
て大いに参考になりました。

さて新任からの七年間を
回想し、当時の思い出を書
いてみようと思います。一
年目は本業である体育の指
導法を武田孝義先生、内田
文六先生にご教示いただき
ました。また体育人として
の基礎・基本をご指導いた
だきました。後々の自分に
とって大いに役立つもので
す。今でも生徒への学習
指導の原点はこの基礎・基
本と想っています。二年目
には初の担任を四十七年に
新設された生活科(三回生)
で持ちました。講演にも
あった女子指導の難しさを
痛感しながら多くの先生方
に迷惑をかけ、また失敗を
重ねて勉強させてもらいま
した。驚いたこともありま
した。学校紛争により警察
の介入があったり、長時間
に及ぶ職員会議であったり
と私にとって教育の本質を
考えさせられる一時期でし
た。次にグラウンドに目を

向けると、砂塵防止や学校
緑化運動の一環として芝を
張ることになり、周辺学校
のモデル校となりました。
安城農林高校を視察し、各
種の芝を植えたグラウンド
で授業をしたことを思い出
します。怪我の防止になり
有効でした。ただ普通の学
校では維持管理が大変で無
理があるため、その後進展
しませんでした。全校生徒
による除草作業を実施した
ことが今でも懐かしく思い
出されます。二十代を過こ
した稲高での教員生活は、
青春そのものでした。有難
うございました。おわりに
稲高高校の更なるご発展を
心よりお祈りいたします。

農業教員としての原点
田職員 谷澤 隆
昭和四十八年、昭和五十七年
平成十一年、平成十七年任職

創立百周年記念式典が盛
大に挙行されましたこと
心よりお祝い申し上げます。

私は昭和四十八年稲高
校で教員としてのスタート
を切りました。農業教育や
農業高校に全く無知で、授
業後に当番活動があること
すら知りませんでした。

知ってからの当番指導は毎
日日没までと、苦痛な日々
が続きましたが、指導され
る日比先生の後姿から「農
業教育の基盤は農業に有
り」を体得したような気が
します。また知識技術も未
熟だった私に、「技術は農
家から盗め」と教えていた
だきました。

温かく迎えていただいた
農家の皆さんから得た知識
技術は、農業教員として骨
格のようなものになってい
きました。徐々に農業教育
に興味を深めていく自分
に、夢を持つことの大切さ
を教えたのは、若き日の萩
果樹徳さんとの出会いでし
た。当時寝食もままならな
い状況の中で、植物につい
て熱く語る彼の目は澄んで
輝いていました。自分に足
りないのは新たな事に夢を
持つて取り組む事と気がき
きました。そうして始めたの
が西農場樹木見本園のリス
ト作りであり、プロジェクト
活動への取組でした。

稲高高校には自由で明る
い雰囲気があり、若い教員
が集まり、楽しく語り合え
る場に恵まれていました。
その中で培われた信頼関係
は、転勤した後も続いてい
ます。自分が進むべき道を

見失いそうな時も、道標の
ように行くべき先を示し、
孤独感や不安感に押し潰さ
れることはありませんでした。
新任以来すばらしい土壌
と環境の中で、生徒達と夢
中で歩んだ九年間は、私の
教員としての土台となりま
した。農業教員の原点は稲
高高校にあり、第二の我母
校という思いを強く持って
います。

その後一年間、創立九十
周年の準備に携わらせてい
ただきましたが、充分な恩
返しもできず転任いたしま
した。私の原点である稲高
高校が一世紀という長い歴
史を刻み、次の世紀に向っ
て益々発展されんことを心
より祈念申し上げます。

支部では、それを受け早
速役員会を開き協議を行
いました。その結果、稲高支
部総会を復活させ、同窓会
長を来賓として招待するこ
ととしました。稲高支部で
は、周年行事における募金
推進や広告協賛活動は、こ
れまで三十九地区の地区委
員の方に協力ご尽力をい
ただいておりました。しか
し、昨今、委員の中にはご
高齢のため体調を崩され
ている方などもあり、新た
に地区委員を補う必要が出
てきました。そのため、この
人ならばと思われる地区の
重鎮の方に、何度も足を運
び、二十一名の方に支部理
事をお引受け頂きました。
そして、やっと総会開催に漕
ぎつけることができました。

支部だより

創立百周年に寄せて
稲高支部
湯浅 勇夫

本格的な支部活動は、平
成二十三年度同窓会総会の
席上で、後藤会長から「私
は稲高支部からまだ一度も
呼んで貰っていない。是非、
支部総会に呼んで頂きた
い」という言葉から始まり
ました。

一方、創立百周年記念事
業の募金活動では、果た
してお金が集まるのか？
と心配された役員の方もあ
りました。しかし、いざ活
動が始まると皆様方から
のお力添えと支え合いに
よって、一口五千円なが
ら募金が四百四十四件、広
告が二十五件で併せて約
五百十万円余も集めて頂き
ました。これも偏に、会員
宅に何度も訪問するなど大
変ご足労をお掛けした支部

理事(兼地区委員)・支部役員や会員の方々の並々ならぬ献身的なご協力とご尽力の賜であります。五十支部ある中で、母校のお膝元で最大会員数を擁する我が支部は、その盟主として面目を保つことができました。

この募金推進・広告協賛活動を通して、同窓生同士の絆が強くなり、交流が新たに始まり、その輪が拡がりました。私も、同級生や教え子の方に久しぶりにお会いすることができ、同窓生の方とも母校の昔話や恩師・同窓生の消息など、一時青春時代に帰り懐かしく楽しくお話ができました。皆様、ありがとうございます。

稲高創立百周年記念のスローガン
「百年の時を越え、
花を咲かせ未来の種」
佐織支部
伊藤 義文

先般、母校の創立百周年記念事業の一環で記念誌委員会の委員として記念誌作りに携わったが、式典も無事に終わって今はほっとしている。そんな折、同窓会事務局より創立百周年記念

特集号に掲載する「支部活動について」の原稿依頼があった。佐織支部の前身は旧・海部郡佐織町、現在は愛西市に所属するが旧町名をそのまま継承した支部名で活動。支部長は稲高同窓会長も兼務する後藤芳徳氏、小学校単位の副支部長が四人、庶務、会計が各一人、監事二人を含む理事二十人、総計では百五十人の支部員で構成。小生は浅学ながら三年前の平成二十三年度から庶務を拝命して理事の仲間入り。当支部は毎年、校長と同窓会事務局の先生を招き、後藤支部長が教員時代の教え子が経営する料理屋で理事総会、並びに支部の近況報告を開催。また、年に数回は支部長と理事の有志らが車で三重県尾鷲とか北陸方面へおいしい魚料理を食べに一泊の懇親旅行を実施している。特に今回は創立百周年記念事業があり事務局で寄付金目標「総額で二十万円」が設定された。何はさておき一連の記念事業を成功させるには募金の集まり次第で寄付金集めが一番肝要。本部の実行委員長を兼ねる支部長が早い段階から陣頭指揮を執り、支部の理

事らと寄付金集めの方法について何回も対策名目の会合を開いた。その答えは支部長以下二十人の理事が手分けして記念事業のネーム入りタオルを持参して卒業生の自宅を訪問するで意見が一致。聞けば、今回の寄付金集めで佐織支部が募金率第一位との由。うれしい限りでヤッターと叫びたい。支部目標を達成した寄付金と同時に佐織支部の輝かしい成果を誇りに思う。愛校精神が旺盛な卒業生各位の絶大なる協力にも感謝あるのみ。募金集めに御尽力された稲高同窓会佐織支部の皆様方には心から御礼申し上げて拍手をおくりま

創立百周年おめでとう御座います。八開支部は今回の事業募金活動について、事業決定後、臨時の役員会を開催し、同窓会長、学校長出席の上に記念事業説明会を行いました。役員は各地区の卒業生を訪問し募金活動を積極的に行った結果、目標を大きく上回ったと思えます。協力に感謝

創立百周年に寄せて
八開支部
吉川 靖雄

を申し上げます。支部活動としては、八開地区も高齢化の波の中にあり、三年に一回の役員総会にて終わっています。農業経営が順調な時代から後継者不足等の大変厳しい時代になり、視察など経営に関する事業が不可能となって、現在は役員総会のみであります。

私が支部役員の一入として携わってから三十年くらいになります。当時は年一回の総会、役員会で久しぶりに同窓生とも会う程度でありました。特に周年事業の際に募金集めが主な役目でありました。私で支部長が四代目ですが、副支部長となつてから寄付金集めの支部ではないけない、当時の日比支部長に進言し、祖父江町には六小学校区があり、各校区に原則として二人の支部役員をおき、支部長の校区は三人として連絡窓口を設けました。年間行事は総会、役員会数回、親睦を含めた視察、七年前に稲沢市に合

祖父江支部の募金活動
祖父江支部
伊藤 紀

併されてから市長との農業座談会など開き、会員相互の密接度を深めるようにしました。したがって周年の募金も割合スムーズに行えるようになってきました。さて今回、母校創立百周年記念事業につきましては、五年前より、事業のあらましや募金についての協力を心を入れて丁寧に説明しつつ理解を深めました。私が募金委員長を受けていますので、支部としても力のある限り募金活動をしながらはいけないし、他の支部に対してもリーダー的存在になるべきと思ひ、力を入れました。まず支部役員に一人六口三万円をお願いしました。私は支部役員として三万円、あとで七万円を加えて十万円募金しました。

募金活動が本格化した八月中旬に、祖父江支部の個人別の額を精査して各支部役員に渡しました。そして九月から担当区域、集落へ記念タオルを持って同窓生宅を訪問し、お願いにあがりました。愛知西農協祖父江町支店に支部口座を設け、支部役員が一括して振り込みました。各個人の募金については役員が名簿管理し

十一月終りに支部役員に郵便振替額、支部集金額を添え現状を把握して、さらにお願いに足を運びました。校区によっては同窓生の80%から協力いただきました。あまり進んでない校区でも、もう一度お願いしようとしていただき、翌年一月では募金、広告含めて二百万余を超えました。本当によくやっていたのだと感謝いたします。祖父江町は稲沢市では農地が一番多く、また農産物が米、野菜、ギンナン、緑化木、花卉等生産物が多く、その中堅農家は同窓生で占めています。また出荷組合、生産組合、土地改良区等のリーダーも同窓生です。

都市化、兼業化が進んでいる中でも農業は地域の基幹事業として輝いています。稲高卒業生であることは肩身の広い感じがします。さて、百周年記念事業は内容も充実して立派に挙行され、新聞に報道され大変良かったと喜んでいますが、いろいろお世話になった支部の会員の皆様、特に献身的に活動していただいた役員の皆様に深く御礼を申し上げます。

十一月終りに支部役員に郵便振替額、支部集金額を添え現状を把握して、さらにお願いに足を運びました。校区によっては同窓生の80%から協力いただきました。あまり進んでない校区でも、もう一度お願いしようとしていただき、翌年一月では募金、広告含めて二百万余を超えました。本当によくやっていたのだと感謝いたします。祖父江町は稲沢市では農地が一番多く、また農産物が米、野菜、ギンナン、緑化木、花卉等生産物が多く、その中堅農家は同窓生で占めています。また出荷組合、生産組合、土地改良区等のリーダーも同窓生です。

都市化、兼業化が進んでいる中でも農業は地域の基幹事業として輝いています。稲高卒業生であることは肩身の広い感じがします。さて、百周年記念事業は内容も充実して立派に挙行され、新聞に報道され大変良かったと喜んでいますが、いろいろお世話になった支部の会員の皆様、特に献身的に活動していただいた役員の皆様に深く御礼を申し上げます。

卒業生より

稲沢高校三年間の思い出

昭和十八年普通科卒業
角田 泰利

私が稲沢高校に入學したのは戦後間もない昭和二十五年でした。小学校からの学校生活を振り返ると、尋常小学校が名前を変え国民学校となった最初の一年生、新制中学も最初の一年生、更に新制高校も最初の一年生と全て新制度の入校でした。そのため、先生も生徒も戸惑いがあったと思います。特に高校は学区制のため、上級生は殆ど一宮、名古屋の学校から来た人ばかりで大変でした。

さて、私の高校三年間は、本当に充実した楽しいものでした。二年の時、生徒会長の選挙に立候補しました。公約に「新しい校歌の制定」を掲げて当選しましたが、具体的な案は考えていなかったため、小竹先生に相談しました。先生が萩原町に住んでおられる佐藤一英さんという詩人をご存じとのこと、作詞を頼んで頂きました。

佐藤先生は文化講演会にも来校されて、全校生徒の前でお話をされました。先生のお話で覚えているのは、歌詞に韻を踏むことでした。韻を踏むとは、一行の最初の文字(音)が次の行も同じ音で続くことです。稲高の校歌にも一番目に、伊吹の「い」があり、「い」が三行続いていきます。

作曲は佐藤先生に大中寅二先生を紹介して頂きました。大中先生は鳥崎藤村作詞の有名な歌曲「椰子の実」の作曲者でもあります。両先生により、僅かな期間で校歌が完成しました。

また、生徒会から謝礼を出したのも珍しい例ではないかと思えます。スポーツは在校時代、女子ハンドボール部の日本一は有名ですが、私はテニス部に所属していました。授業が終わると、国府宮駅前にあったコートへ行き、日が暮れるまで練習をしたものです。帰りに近くの店で一杯三十円のシナそば(ラーメン)を時々食べるのが楽しみでした。

文化部は英語部で、偶々、CBCラジオの英会話番組に私が出演して、記念(?)に歯磨きセットを買って帰りました。(スポンサーが

ライオン歯磨でした)あれから六十一年以上経た今でも、八十の手習いで英会話教室にかよっています。が、一向に上手くなりません。

諺に、「一年を計る者は花を育てる。十年を計る者は木を育てる。百年を計る者は人を育てる」とありますが、稲沢高等学校を創設した先人は、まさに、百年を計った人々であると感謝する次第です。

両先生により、僅かな期間で校歌が完成しました。また、生徒会から謝礼を出したのも珍しい例ではないかと思えます。

スポーツは在校時代、女子ハンドボール部の日本一は有名ですが、私はテニス部に所属していました。授業が終わると、国府宮駅前にあったコートへ行き、日が暮れるまで練習をしたものです。帰りに近くの店で一杯三十円のシナそば(ラーメン)を時々食べるのが楽しみでした。

文化部は英語部で、偶々、CBCラジオの英会話番組に私が出演して、記念(?)に歯磨きセットを買って帰りました。(スポンサーが

半世紀前の思い出

昭和十八年園芸科卒業
田中正文

百周年おめでとうございます。私が母校に入學したのは、伊勢湾台風(昭和三十四年)の翌年昭和三十五年四月です。農家の後継ぎということ、半ば強制的に稲高に入學させられました。ところが意外なことに普通科と違って、個性をもった仲間達との出会いがありました。地元だけではなく、名古屋、一宮、小牧、木曾川と、広い範囲から通学をしていました。

養豚を目指すもの、花卉野菜、植木造園と、それぞれ、希望に満ちて目が輝いておりました。私も植木造園を目指して楽しい学園生活でした。

卒業して次年の東京オリピック国内聖火リレー(昭和三十九年)は、私の一生の思い出であると思います。稲沢地区を三人で受け継ぎ、私と後藤君(同級生)横井君(後輩)が正走者で走りました。特に後藤君は、陸上部で在学中は毎日一人で黙々と、トラックを走っていました。今でもその姿を思い出します。元気でしようか?

私は高校卒業後、七年間ほどの修業を終えて独立、造園業に。幸いにも父親が植木生産をしていましたので、材料は家の品物を使うことが出来ました。その当時は建売住宅ブームで沢山の住宅が次から次へと建ち、家が出来るとすぐに庭を作ると言うパターンで、大小の庭を多く作ってまいりました。

その後は地域の皆さんからも信頼され、地元のお寺の庭や農家の大きな庭なども作り、本当に良き時代であったと思います。現在は作って来た庭のメンテナンスや改造、造園工事等、忙しい毎日を送っています。

庭づくりは、施主との信頼関係、親戚みだいなつき合い、造園予算の大小にかかわらずに、手をぬかずに、誠心誠意をつくす、を motto にやっています。

稲高の形も変化し生活もかわって来ましたが、母校稲高で培われた精神だけは忘れずに地域の中核として生きていきたいと思っています。今でも毎年六月にクラス会を継続しておりますが、恩師の塚本先生も元気でご出席下さいます。四十六名の内すでに十名が逝去という、さびしい状態です。塚本先生からオレより先に逝くな!と言われております。最後にこの原稿を寄稿する機会を与えて下さった方々に、感謝しつつ、我、母校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

私の稲高時代

昭和四十四年園芸科卒業
近藤 硬

稲沢高校創立百周年を迎えられお喜び申し上げます。創立百周年記念式典、記念講演、記念祝賀会が盛大に開催され参加できました。

こと、誠にありがとうございます。企画、運営されました記念事業実行委員会の皆様、校長先生始め学校関係者、生徒の皆様方には、心より感謝申し上げます。

私は昭和四十一年から三年間在学いたしました。稲高時代の思い出の一つは、学校農業クラブの全国大会(農業鑑定競技 園芸科)に出場したことです。残念なことには開催地は隣の岐阜県であり、日帰りでは三日間通いました。この競技の予習にかなりの時間を費やし農業知識を深めることができ、全国の多くの仲間と出会い貴重な経験を積みました。

二つめは、三年間同じクラスだったので親しくなり、生涯の仲間である親友を数人得ることができたことです。現在も専業農家としてそれぞれの地域にて活躍中で、卒業以降も毎月集まり世間話や仕事のこと、相談ごと等交流を重ねており精神的支えとなっております。

三つめは、野菜専攻で圃場をまかされてトマトを栽培し、その後、卒業に向けて三十ページほどのレポート

三つめは、野菜専攻で圃場をまかされてトマトを栽培し、その後、卒業に向けて三十ページほどのレポート

三つめは、野菜専攻で圃場をまかされてトマトを栽培し、その後、卒業に向けて三十ページほどのレポート

三つめは、野菜専攻で圃場をまかされてトマトを栽培し、その後、卒業に向けて三十ページほどのレポート

三つめは、野菜専攻で圃場をまかされてトマトを栽培し、その後、卒業に向けて三十ページほどのレポート

トを書いたことです。タイトルが「我が家の農業」と記憶しておりますが、現在の農業経営の基礎であり卒業後の進路を真剣に考え、推敲を重ね先生方の指導の下ずいぶん苦勞して完成しました。この時に現在の基幹作物であるピーマンを選択しました。

私の礎となる稲沢高校時代の体験は、人生ならびに農業経営に多大なる影響があり、いつも感謝し有難く思っております。

我が家の農業経営の現況は、ビニールハウスによる冬春ピーマン(年一作)栽培の四十五作目が進行中です。いまだにカイセン、世界共通語・するところばかりです。施設園芸先進国オランダのデータを目標に、今後も新しい栽培技術並びに経営を取り入れより進歩するよう努力する所存です。

最後になりましたが、稲沢高校のますますの発展を、また同窓生の先輩、後輩、生徒の皆様のご活躍並びにご多幸を祈念いたします。



在校生より

記念式典

司会として参列して
園藝科 三年二組
藤本 巧

稲沢高等学校の記念すべき創立百周年記念式典に司会として参列できましたことを、私は心よりうれしく思います。

平成二十六年十月三十日、式典は多数のご来賓の皆様、先生方、全生徒が出席して、盛大に執り行われました。厳肅な雰囲気の中、開式の辞で式典が始まり、多数のご祝辞をいただき、私はこの大変すばらしい式典に参加していることに緊張感を覚えていました。一口に百周年と言っても、そこにある長い歴史の重みをひしひしと感じながら舞台に立っていました。そして、校歌斉唱、閉会の辞をもって式典が終了したとき、ようやく緊張が解けました。

私は園芸科に在籍し、多くのことを学ばせていただきました。稲沢高等学校で学び修得したことは、卒業してから必ず私の力となっていくことと思います。

私たちは、これまでの先輩方が築き上げてこられた良い校風と伝統を、これからの後輩に引き継ぎ、後輩たちにはますます発展させていって欲しいと願っております。そして、これから百十周年、百二十周年、さらには二百周年に向かって、先生方と生徒が一丸となり、我が校がより一層飛躍してまいりますことを心から期待しております。

このような行事は十年に一度しか行われません。私は司会として良い刺激を受けました。この経験は一生忘れることはないでしょう。そして、十年後に行われる創立百周年記念式典には、卒業生としては是非参加したいと思いました。三年間、本当にありがとうございました。

稲沢高等学校の歴史の中で大きな区切りである創立百周年記念式典に参列できたことをとてもうれしく思います。

平成二十六年十月三十日、式典は来賓の方々や先

生方、全校生徒が参加して盛大に行われました。会場全体が緊張感に包まれた中、式典が始まり多くのご祝辞をいただきました。式が進むにつれて緊張感はさらに高まり、参加者全員が稲沢高等学校百周年の重みを感じていることが伝わってきました。

式典終了後に行われた記念行事では、全日本バレーボール女子の監督である眞鍋政義氏を迎えて講演がありました。講演では全日本バレーボール女子の裏話やチームを上手にまとめている方法、オリンピックの内容など、多くのお話をしていただき、大変面白い講演で大変盛り上がりました。私は、農業土木科に在籍し多くのことを学ばせていただきました。中でも入学時から興味を持った測量では、平板測量競技の選手になることができ、大会に向けて早朝や授業後に先生、先輩、後輩と毎日練習に励みました。練習の結果、二年生の時には県大会を勝ち上がり、全国大会に出場しました。平板測量競技を通して、測量の知識や技術は

稲沢高等学校の歴史の中で大きな区切りである創立百周年記念式典に参列できたことをとてもうれしく思います。

もちろんですが、仲間と努力することの大切さや、一

生懸命努力をすれば必ず結果がついてくることを学びました。そしてこの経験をさらに生かしたいという気持ちが強くなり、将来は測量関係の仕事を行いたいと考えるようになりました。そのために稲沢高校卒業後は、測量関係の勉強を行うことができる大学へ進学することを決めました。

稲沢高校で学んだことは卒業してからも必ず私の力となっていくことと思います。私たちは、先輩方が築きあげてきた稲沢高校の歴史と伝統を引き継ぎ後輩たちに伝えていきたいです。そして稲沢高校がますます発展することを心より願っています。

私は記念庭園のデザインなどに携わりました。二年の冬頃から、環境デザイン科の緑化コースの中でデザインを募集し、先生が声をかけてくださった事がきっかけです。記念庭園で使用する添景物としては、筑波大学名誉教授である伊藤鈞先生から寄贈していただいた、大理石の彫像「EOD田(イタリア語で開花)」、農学校の門柱、教育目標碑があげられていました。

当初は枝分かれする未来を表現し、「FORE」に合わせ、煉瓦などを使用した洋風の庭園をデザインしていました。しかし、百年の軌跡とこれから迎える無限の可能性を表す、「無限の開花」というテーマでデザインを考え直すことになりました。そして、何十年先も完成した当時と同じ状態で庭園を残していくことのできる庭園のデザインをすることにしました。

庭園のデザインをすることは初めての経験で、上手く想像が膨らまず、憤りを感じる事が多々ありました。しかしその都度、周りの友人や先生方に支えていただき、想像をまとめていくことができました。同窓生の菱甲園様には、卒業生の方々の庭園や護国寺を見学させていただき、自分の中にはなかった新しい発想を得る機会をいただきました。

また、記念庭園のデッサンは友人が担当をしてくれ、最終的には記念庭園の設計図やイメージ

また、記念庭園のデッサンは友人が担当をしてくれ、最終的には記念庭園の設計図やイメージ

また、記念庭園のデッサンは友人が担当をしてくれ、最終的には記念庭園の設計図やイメージ

記念庭園について
環境デザイン科 三年四組
吉田 桃子

ジ画などが完成したのは三年の夏頃でした。竣工式に間に合うか不安でしたが、無事に竣工式を行うことができて安心しました。

記念庭園を造るという行事は十年に一度しか行われません。その中でも百周年という記念すべき年の行事に携わることができ、本当に嬉しく思います。多くの人たちの思いが込められたこの庭園がいつまでも残っていてほしいと思います。

記念式典
接待係を行って、
生野資料 二年五組
板津美海

愛知県立稲沢高等学校は、大正三年に開校し大正・昭和・平成の時を越え平成二十六年十月三十日に稲沢市民会館大ホールにて創立百周年記念式典が行われました。この記念の年に私達が在籍しているのはすごい事だと思えます。

記念式典では、接待係をしました。接待係は、主に来賓の方々を控え室へご案内したり、お茶出しをしたりするということでした。二週間前から、記念式典のための練習をしまし

た。礼儀作法や接待係としての役割を学びました。知らない事ばかりでとても良い勉強になりました。

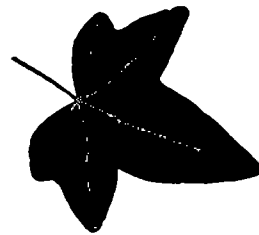
前日には、稲沢市民会館へ行き、記念式典の準備をしました。準備が終わると、「ついに明日が記念式典の日だ」と実感しました。

母校が百年を迎える喜びの反面、通常の行事とは違う雰囲気や不安や緊張を感じました。しかし一緒に接待係をやる友達や先生方に、「頑張ろうね」や「頼んだよ」と言われて不安や緊張がなくなっていました。

本番では、同窓会長や校長先生、来賓の方々にお茶出しをしました。お茶出しをした時「ありがとうね」と言われてとても嬉しくやりがいを感じました。記念式典が始まる前、来賓の方にリボンをつける時緊張しましたが、接待係として最高のおもてなしができたのではないかと思います。

接待係としての仕事は、笑顔や礼儀が大切でいろいろ大変でしたが、一度しかない百周年記念式典の接待係ができたことを嬉しく思います。私達の母校がこの先、百五十年二百年と誇れ

る学校が続くよう、まずは日々学校生活に励み、先輩方から受け継いだ歴史と伝統を守り、新しい物作りに挑戦し、後輩へ引き継げるよう頑張りたいと思います。



芳名録 (平成 26 年 8 月以降)

敬称は省略させていただきます

農業高校併設中学校	昭 24 年卒	内藤 清弘
農業科	昭 33 年卒	長尾 克之
	昭 36 年卒	大島 富高
	昭 38 年卒	井浪 靖久
		伊藤 勝視
		黒宮 文男
		福田 正美
		渡辺 和信
		高木 光一
農業経営科	昭 40 年卒	丹下 藤雄
緑地園芸科	昭 50 年卒	堂所 典子
造園土木科	昭 47 年卒	浅野 高德
	昭 52 年卒	伊藤 慎之助
園芸科	昭 33 年卒	竹村 武
	昭 41 年卒	織田 明義
	昭 56 年卒	伊藤 龍哉
	平 3 年卒	金山 貴洋
	平 4 年卒	中埜 栄一
		山田 寛
	平 7 年卒	橋本 有史
	平 25 年卒	石田 建紀
農業土木科	平 4 年卒	伊藤 廣市
普通科	昭 32 年卒	滝 哲子
	昭 36 年卒	横田 美和
	昭 42 年卒	岡部 陽子
	昭 44 年卒	鬼頭 宗勝
生活科	昭 62 年卒	宮國 美穂
定時制農業科	昭 35 年卒	高瀬 豊
	昭 38 年卒	水谷 敏光
保護者		中島 健介
		土谷 凌
		奥田 和也
旧職員		松本 納都美
		佐藤 友紀子

総合緑化開発
造園工事、土木工事設計施工・管理

株式会社 豊 苑

代表取締役 近藤 吉美

国立 富士夫
昭和42年 造園土木科 (2回) 卒

口 田 勝 弘
昭和46年 造園土木科 (6回) 卒

伊 藤 欣 也
昭和52年 造園土木科 (12回) 卒

吉 山 貴 司
平成17年 造園緑地科 (10回) 卒

〒452-8601 愛知県清須市須ヶ口1900番地
電 話 (052) 409-1293 番
F A X (052) 409-7473 番

百周年記念事業会計 (中間報告)

〈平成26年12月10日現在〉

収入の部

科 目	予算額	収入済額	増減額	摘 要
協 賛 金	26,500,000	27,140,765	640,765	
広 告 料	3,500,000	3,640,000	140,000	
雑 収 入	3,000,000	3,667,247	667,247	事務経費として同窓会から3,000千円受入、 利息、税金、祝賀会費加算
合 計	33,000,000	34,448,012	1,448,012	

支出の部

科 目	予算額	支出済額	残 額	摘 要
記念式典・記念行事費	8,100,000	7,989,515	110,485	
(1)会 場 費	250,000	440,681	-190,681	
(2)看板・装飾費	580,000	781,339	-201,339	
(3)記念行事費	550,000	655,842	-105,842	
(4)記念品費	4,000,000	4,416,870	-416,870	
(5)接 待 費	800,000	628,683	171,317	
(6)印 刷 費	900,000	615,302	284,698	
(7)通 信 費	360,000	393,737	-33,737	
(8)記 録 費	660,000	57,061	602,939	
記 念 誌 費	6,500,000	6,213,424	286,576	
(1)記念誌発行費	5,250,000	5,248,424	1,576	
(2)印 刷 費	200,000	0	200,000	
(3)郵 送 費	930,000	864,000	66,000	
(4)事 務 費	120,000	101,000	19,000	
特 別 事 業 費	6,800,000	6,752,730	47,270	
(1)寄 贈 品 費	1,500,000	1,370,552	129,448	
(2)功 労 者 表 彰 費	500,000	647,376	-147,376	
(3)記 念 造 園 費	4,800,000	4,734,802	65,198	
募 金 費	9,000,000	7,398,894	1,601,106	
(1)住 所 整 理 費	1,900,000	1,703,131	196,869	
(2)趣 意 書 発 送 費	1,700,000	1,305,013	394,987	
(3)広 告 印 刷 製 本 費	900,000	854,280	45,720	
(4)募 金 活 動 推 進 費	4,500,000	3,536,470	963,530	
祝 賀 会 費	1,100,000	1,681,023	-581,023	
(1)祝 賀 会 費	1,100,000	1,681,023	-581,023	
事 務 局 費	1,500,000	526,193	973,807	
(1)会 議 費	100,000	147,960	-47,960	
(2)通 信 費	50,000	36,475	13,525	
(3)交 通 費	50,000	15,970	34,030	
(4)印 刷 費	1,000,000	162,000	838,000	
(5)事 務 費	300,000	163,788	136,212	
合 計	33,000,000	30,561,779	2,438,221	

※ 今後の支出予定 (特集号印刷費、記念品等郵送費、他)

庭造り専門 和モダン庭園

株式会社 水 伸 園

代表取締役 水野伸昭 平成12年造園緑地科(第5回)卒

〒485-0003 小牧市久保一色 3515-10 TEL・FAX (0568)27-8786



本店 あいち海部農業協同組合

〒496-0876津島市大縄町9丁目63番地

TEL (0567) 28-6688 FAX (0567) 28-6655

E-mail: jaama@lilac.ocn.ne.jp

津島支店 ☎ (0567) 26-2155
 永和支店 ☎ (0567) 31-0011
 佐屋支店 ☎ (0567) 28-2353
 立田支店 ☎ (0567) 28-2377
 八開支店 ☎ (0567) 37-0311
 佐織支店 ☎ (0567) 28-7255
 西川端支店 ☎ (0567) 37-1280

蟹江支店 ☎ (0567) 95-3154
 十四山支店 ☎ (0567) 52-2116
 飛島支店 ☎ (0567) 52-1235
 鍋田支店 ☎ (0567) 68-8121
 弥富支店 ☎ (0567) 67-1131
 市江支店 ☎ (0567) 31-1121

ホームページ

<http://www.ja-aichiyama.com/>

あいち海部

